

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は下げが一服すると再び上昇に転換か

[1月17日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		1月10日～1月14日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	115.66	115.85(10)	113.64(14)	113.72	-1.84
ユーロ・ドル	1.1351	1.1483(14)	1.1285(10)	1.1479	+0.0119
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	28,124.28	-354.28	日本10年債利回り	0.148	+0.008
ダウ平均株価	36,113.62	-118.04	米10年債利回り	1.704	-0.058
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 17日 日本11月機械受注
英1月ライトムーブ住宅価格
中国第4四半期国内総生産(GDP)
中国12月鉱工業生産指数、中国12月小売売上高
カナダ11月製造業出荷
- 18日 日銀金融政策決定会合(17～18日)・金融政策発表
日本11月鉱工業生産指数確報値
黒田日銀総裁記者会見
英12月雇用統計
独1月ZEW景況感指数
米1月NY連銀製造業景気指数
米11月対米証券投資
- 19日 英12月消費者物価指数、英12月生産者物価指数、英12月小売物価指数
独12月消費者物価指数確報値
スイス12月生産者・輸入価格
ユーロ圏11月経常収支
米12月住宅着工件数・建築許可件数
カナダ12月消費者物価指数、カナダ11月卸売売上高
- 20日 日本12月貿易収支
豪12月雇用統計
独12月生産者物価指数
ユーロ圏12月消費者物価指数確報値
米新規失業保険申請件数、米1月フィラデルフィア連銀景況指数
米12月中古住宅販売件数
- 21日 日本12月消費者物価指数
英12月小売売上高
カナダ11月小売売上高
米12月景気先行指数

【前回のレビュー】米長期金利の上昇を受けて、ドル円は底堅い動きを見せている。ドル円は高値警戒感もあり、上値を抑えられているものの、テクニカル面での調整一巡後は再び上昇に転じるとみられるとした。

【米消費者物価指数を受けてドル売りの動き】

ドル円は昨年12月中旬から1月4日にかけて上昇基調で推移して、約5年ぶりの高値を付けたこともあり、その後は下落基調で推移している。

11日に米上院銀行委員会での米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の再任公聴会では、インフレの抑制と持続的な景気拡大のためにあらゆる手段を講じると述べた。また、「年内にバランスシート縮小の可能性が高い」との見解を示した。公聴会で発言はそれほど目新しい内容はなく、発言内容が想定ほどタカ派的でなかったとみなされて、ドル売りが広がった。

その後注目されたのは、12日に発表された12月の米消費者物価指数で、前年比+7.0%となり、事前予想と同水準だった。食品とエネルギーを除いたコア指数は前年比+5.5%となり、事前予想の+5.4%を上回った。

予想通りの高水準となったものの、ドル買いの反応も鈍かった。結局ドル売り優勢の展開となり、ドル円は115.50近辺から114.30台まで急速にドル売り円買いが進んだ。13日の12月の米生産者物価指数は高水準ながらも予想を下回ったことで、ドルはさらに売られた。ドル円は114円近辺まで下落して、14日には113円台後半まで下落した。ドル売りの背景にはドルの買い持ちが膨らんでおり、それを巻き戻す動きが進んだことが背景にあるとみられている。

このところは米連邦公開市場委員会（FOMC）メンバーやFRB当局者から、3月利上げに前向きな発言など、早期の金融正常化に肯定的な発言が相次いでいる。13日に米フィラデルフィア連銀のハーカー総裁は、3月の利上げ開始に加えて、年内に3回か4回の利上げを実施することが好ましいとの見解を示した。FRBのウォラー理事は年内3回の利上げを想定しており、インフレの動向次第で増えたり減ったりする可能性があるとの認識を示した。

また、ブレイナード理事は米上院銀行委員会での副議長指名承認公聴会で、「高いインフレ率を抑えることが最も重要な課題」との認識を示した。また、「供給面での制約がエネルギーや食品などの価格上昇につながっている」と述べ、これに対応するために「利上げを行う用意がある」との見解を示した。こうした当局者の一連の発言はすでに織り込まれているとみられ、市場の反応は限定的となっている。

市場ではFRBによる今年3～4回程度の利上げやバランスシートの縮小までいったん織り込んだ可能性があり、ドルはポジティブな材料にも反応しにくくなっている。ただ、米国での複数回の利上げやバランスシートの縮小は実施される見通しであり、ドル円は113円を割り込んでの大幅な崩れはないとみられる。下げが一服した後は再び上昇に転じるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、112.75～115.75円。

なお、日銀が金融正常化に向けて議論しており、インフレ目標2%達成前に利上げに踏み切ることが可能か議論しているとの一部報道があった。実際に議論されるようであれば、一時的に円高に傾く可能性がありそうだ。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、17日に日本11月機械受注、18日に日銀金融政策決定会合（17～18日）・金融政策発表、日本11月鉱工業生産指数確報値、黒田日銀総裁記者会見、米11月NY連銀製造業景気指数、米11月対米証券投資、19日に米12月住宅着工件数・建築許可件数、20日に日本12月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米11月フィラデルフィア連銀景況指数、米12月中古住宅販売件数、21日に日本12月消費者物価指数、米12月景気先行指数などがある。

【ユーロドルは上昇基調で推移か】

ドルが軟調な動きを見せていることで、ユーロドルは1.12～1.13台のレンジを上へ抜けてきた。ドル売りの巻き戻しなどもあり、堅調な流れが続くとみられる。このところは陽線が連続してボリンジャーバンドの+2σを超えてきており、バンド幅を拡大しながら上昇基調で推移することとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1350～1.1600ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、17日に英11月ライトムーブ住宅価格、中国第4四半期国内総生産（GDP）、中国12月鉱工業生産指数、中国12月小売売上

高、18日に英12月雇用統計、独1月ZEW景況感指数、19日に英12月消費者物価指数、英12月生産者物価指数、英12月小売物価指数、独12月消費者物価指数確報値、スイス12月生産者・輸入価格、ユーロ圏11月経常収支、カナダ12月消費者物価指数、20日に豪12月雇用統計、独12月生産者物価指数、ユーロ圏12月消費者物価指数確報値、21日に英12月小売売上高、カナダ11月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。